

その声と瞳を届けたい ～オンライン面会を通して～

HCU 師長 豊崎 陽子



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くの病院で患者さんとの面会が制限されています。

当院もやむなく面会制限により、直接会うことのできない状況がありました。

私たちは、患者さんに向けられたご家族の笑顔や「大丈夫よ」の一言が、何よりの励みになることを知っています。しかし面会制限の中、患者さんの状態や家族の言葉を、互いに伝えるだけの対応にもどかしさを感じていました。

当院では、2020年12月より直接会えない患者さんと家族のために、タブレット端末を用いて「オンライン面会」を始めました。オンライン面会は予約制

で「一人10分間」という限られた時間でしたが、久しぶりに見る患者さんの表情に、「画面越しでも顔を見て話せてよかった」と安堵されるご家族もいました。笑い声や励ましの言葉が交わされ、手紙や写真では得られない穏やかな時間に私達も自然と笑顔になりました。

コロナ禍での闘病生活の中で、孤独ではなく身近に家族を感じてもらい取り組みでしたが、今後も、患者さんや家族の想いに寄り添える看護を目指していきたいと思えます。



手術用ナビゲーションシステムの導入 —より安全・安心に繋がる手術の提供—



手術センター師長 藤岡 十季己



「ナビゲーション手術」は術前に撮影されたCTやMRIデータをモニター上に3D画像として表示させ、手術器具の先端をリアルタイムで目的部位に導く画像システムで、カーナビゲーションを思い浮かべると理解しやすいと思います。

当院の手術センターでは2020年1月に導入し、耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科で運用を開始いたしました。

ナビゲーションシステム導入によるメリットは、「より正確で安全な手術」「被爆の回避」「最小侵襲手術への対応」「教育的効果」などが挙げられます。導入により、これまで経験できなかった手術にも携わることが出来るようになりました。

手術医療は進歩し続けており、看護師も幅広い知識とスキルが必要とされます。

このようにナビゲーションシステムに携わることは、質の高い手術看護の提供に繋がると考えています。

今後も看護の本質である“患者に寄り添う姿勢”を忘れず、一層の精進を重ねていきたいと思えます。

